

この木を未来へつなぐ

根雨小学校でリレー植樹



ミカンの木2本が贈られ、根雨小学校栽培環境委員会の代表らが植樹を行う

鳥取県の推進する「グリーンウェイブ」の県民活動に賛同し、鳥取銀行が県内の小中学校などで展開するリレー植樹が、5月23日、根雨小学校で行われました。

4月23日に始まった植樹は、根雨小学校で6カ所目。全国植樹祭を契機に、実のなる木を贈っています。この度贈られた木はミカンの木2本で、校舎南側に植えられました。植樹には、同小学校栽培環境委員会が参加し、今後、水やりなど世話をを行います。

主催した鳥取銀行の砂川晴美根雨支店長は「5年、10年と大事に育てていただき、あの日とき植えた木に実がなると喜べるよう世話してほしい」とあいさつ。

同小学校の唐来秀夫校長は「栽培環境委員会が行っている活動を、県全体で取り組もうという活動です。みんなが大人になったとき、そして親になったとき、大きく育った木が見れるよう、しっかりと育てよう」と、児童に伝えました。

また、全国植樹祭キャラバン隊長のトッキーノも訪れ、会場を盛り上げました。

コーヒーの香り漂い、笑顔があふれる集いの場

町公民館に『おしゃべりカフェ』がオープン

黒坂地区のボランティアによる地域活性化を目的とした集いの場『おしゃべりカフェ』が、6月2日、町公民館にオープンしました。

半年前から準備をはじめ、平成25年度鳥取県中山間地域づくりサポート体制構築事業費補助金を活用しています。

この日は、開店を心待ちにしていた多くの地域住民が集まり、早速、コーヒーを飲みながら語り合う姿が見られました。同カフェの

西古尚史代表は「黒坂地区の皆さんに元気になってもらいたいと開店した。にぎやかに開店でき、とてもうれしい。誰でも参加しておしゃべりを楽しんでほしい」と喜びました。また、黒坂鏡山城下を

知ろう会のガイド案内所看板も設置され、活躍を誓いました。

おしゃべりカフェは、毎週火・木・日曜日と毎月第3金曜日の午前10時から午後3時まで、町公民館一階で開店しています。



「看板が出ている日が開店日です」と話す西古さん



ボランティアスタッフも大忙し



もつと深く土を掘って、丁寧に植えようね

津地自治会とひのっこ保育所が芋の苗植え交流

毎年恒例となっている、ひのっこ保育所と津地自治会の交流芋植えが、6月7日、雲一つない快晴の下、津地地区の畑で行われました。

交流は今年で9年目。保育所からは年長児と年中児計22人が出かけ、用意された300本の鳴門金時という種類のサツマイモ苗を津地自治会の皆さんと一緒に植えました。

地域の皆さんは、子どもたちと



地域の人から安全な踏切の渡り方を教えてもらう



やさしく教わりながら丁寧に植える園児

の芋植えが楽しみで、「よく来たね」と笑顔で歓迎し、やさしく声をかけながら1本1本丁寧に植え進めていきました。天候に恵まれ暑い気温で土はカラカラに干上がっており、地域の皆さんは「根付くまで毎日水やりだ。枯らしたらいけないぞ」と、早速水やりに精を出しました。

終了後は、津地自治会館で一緒にお茶を飲みながら交流。秋の芋掘りでの再会を誓い合いました。

奥日野の歴史に関心を 奥日野歴史・文化講演会



谷口さん（右）に感謝状が贈られる



客席からの質問。関心の高さがうかがえる

日野町三谷出身の東洋大学名誉教授、谷口房男さんが、鵜の池湖畔に建つ石碑に刻まれた碑文の解説をきっかけに、建立の経緯や黒坂鏡山城を築いた関一政などについて書き上げた『鵜池畜鯉碑考』。その取材話を行う奥日野歴史・文化講演会が、6月7日、町文化センターで開かれました。

「奥日野の国際交流『鵜池畜鯉碑考』余語」と題した講演会では、自身が取材し明らかになった事柄や訪れた場所を写真で紹介するなどとても分かりやすい内容で、参加者は時折笑ったりしながら、取材の「ごぼれ話」を楽しみました。

この「鵜池畜鯉碑」という名前は谷口さんが名付けたもので「取材し書いたもので自信はあるが、仮説を提示しただけ。この本が奥日野の歴史と文化に関心を寄せてもらうきっかけになれば」と、講演を閉じました。

谷口さんが日野高校の前身、根雨高校を卒業していることもあり、日野高校全生徒が講演を聞きいたほか、碑文の解説や地域の歴史研究の成果に対して町から感謝状が贈られました。